

◆日程

9 月 30 日(月)	10 月 1 日(火)	10 月 2 日(水)
・矢板発 7:00 ・茨城空港発 11:00 ・那覇空港着 13:30 ・読谷村研修 15:30 ・恩納村泊 18:30	・恩納村発 9:00 ・名護市研修 10:00 ・道の駅許田 14:00 ・那覇市泊 17:00	・那覇市発 8:00 ・糸満市研修 9:00 ・ひめゆり平和祈念資料館 11:00 ・那覇空港発 15:25 ・茨城空港着 18:00 ・矢板市着 20:00

◆矢板市市議会視察議員団 (6 人)

団長 ・石井 郁男 議会運営委員会 委員長
 ・小林 勇治 予算決算常任委員会 委員長
 ・石塚 政行 矢板市議会 副議長
 ・桜井 恵二 予算決算常任委員会 副委員長
 ・掛下 法示 教育福祉産業常任委員会 副委員長
 ・齋藤 典子 教育福祉産業常任委員会

◆読谷村行政視察

沖縄県中頭郡読谷村字座喜味 2901 tel.098-982-9225

(1)面会者

議会 議長(伊波 篤)、事務局(儀保一樹)、ゆたさむら推進部 部長(山内 嘉親)
 商工観光課 課長(池原一発)、 商工観光課 係長(島袋 直人)

(2)視察目的 ⇒「スポーツツーリズム」について

日本一人口の多い村読谷村の重点施策のスポーツを通した村づくりに注目し、矢板市でもスポーツツーリズムを重点政策としているので、読谷村のすすんだ村の取組について学ぶ。

(3)村からの説明について...資料に基づき説明を受ける

沖縄県は豊かな自然。温暖な気候といった観光条件を生かした国際的な観光立県を進め、観光産業は沖縄経済の柱へと成長してきた。その一環としてスポーツコンベンション誘致を推進しています。
 読谷村では、スポーツキャンプの受け入れ促進、読谷村が選手の第二の故郷となるような地域交流等、スポーツを通して観光交流分野と複合した新たな地域振興、むら(ひと)づくりを進めます。

具体的取り組み内容は

◆誘致活動

トップセールスによる活動

キーパーソン招待による合宿の実証

筋肉トレーニング用の機械を充実させている。



◆誘客活動

県外 PR イベントの開催...中日ドラゴンズへの誘客活動、沖縄エイサーでの誘客イベント

◆受け入れ実績 (これまでの累計実績)

- ・スポーツキャンプ受け入れ数(R5 年単年度 16件)
- ・野球中日ドラゴンズキャンプ(28 回)、学生野球合宿(6 団体 15 回)、Jリーグサッカー合宿(3 団体21回)

- ・各種団体サッカー合宿(8団体9回) ・陸上・パラ陸上受け入れ(個人3人、団体8競技部)
- ・ラグビー合宿(12団体、42回) ・女子ソフトボール(6団体、24回)
- ・読谷流おもてなし: 観光協会(歓迎セレモニー、グッズ販売、イベント開催、情報発信)
商工会(特産品贈呈、村内企業との連携)、スポーツ団体(スポーツ教室開催、受け入れ準備支援)
教育関係(選手と子どもたちとの交流、挨拶運動、給食交流等)

(4)質疑応答 ○:議員質問 A:村からの答弁

○読谷村の受け入れが素晴らしい。何かポイントあるか

A: 最初の印象が大切であり、種々工夫している。

○村内民間企業と連携した支援金について、その宣伝活動は

A: SNS を活用した情報発信に力をいれている。例えばお酒であれば、大きな模型サンプルをつくり、SNS で発信して宣伝効果を上げている。

○はじめの受け入れはどのようにしているか。

A: 最初プロ野球の2軍選手の受け入れしたときに、おもてなしを大切にした結果、次に1軍選手のキャンプにつながった。口伝いで次の誘致につながっている。

○スポーツツーリズムの経済効果は

A: 年間14億円です。

○キャンプ時、地域のスポーツ活動交流会を実施しているが、そのときのポイントは

A: できるだけ交流時間を長くもつために、代表等の挨拶を少なくしている。挨拶については動画を利用している。

(5)研修を受けての感想・今後の議員活動への反映等

読谷村のスポーツツーリズム事業を研修させていただき、非常に興味深い経験をしました。特に、ソフト事業の進め方や民・官の協力のあり方について学びました。

1. バランスの取り方:

- 読谷村では、民間と行政の要素をバランスよく整えている点が印象的でした。ソフト事業を丁寧に進める一方で、ハード事業にも着実に繋げていく姿勢は理想的です。

2. 地域の理解とおもてなしの精神:

- 村民に理解を求めるためには、地域の特性や文化を理解することが重要です。読谷村の「おもてなし」の精神は、観光や交流の場で大切な要素です。

3. 全ての人が楽しめる仕組みづくり:

- 一般市民から行政職員まで、全ての人が楽しめる仕組みを作ることは、小規模な地域でも有効です。矢板市でも、このアプローチを活用できる可能性を感じました。

読谷村の取り組みは、これからの矢板市独自のスポーツツーリズムの発展に向けて、さまざまな提案をしていくために参考となりました。

(1)面会者

議会 事務局長(屋部 憲克)、名護市役所園芸畜産課 係長(新田 宗達)、

(2)視察目的 ⇒農産物6次産業化支援拠点施設について

農業を支えるまちづくりを目指して、なごアグリパークにおける、農産物6次産業化支援拠点施設整備事業に対する事業を学ぶ。

※6次産業化とは、1次産業の農林漁業、2次産業の製造業。3次産業の小売り業の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取り組みを言う。

(3) なごアグリパークにおける取組の説明について..資料と現場視察で説明をうける。

名護市農業粗生産額は、1990年代に92億円あったが、2010年には約58億円に減少して、農家所得が減少し農業低迷の原因となった。この解決のために、農地利用の最適化や販路拡大、高付加価値化による農業所得の安定化を目指し、6次産業化の推進策として、なごアグリパーク構想が提案された。

2011年(平成23年)より農林水産省が「6次産業化事業計画の認定」が開始された。名護市では、計画認定された初の団体(農クックソニア)が誕生したが、加工品量産のための場所や機材を用意することが困難な課題があった。平成24年度より沖縄振興特別推進交付金が開始されたので、交付額約803億円うち、名護市に約11億円の交付を受けて、なごアグリパーク事業がスタートした。

事業内訳	平成24年度	加工支援施設建設。駐車場整備	約6.7億円
	平成25年度	ショップの建設	約3.6億円
	平成26年度	レストラン、エントランス、観光ハウス建設	約4.3億円
	平成28年度	観光ハウス(2)、栽培ヤードの建設、ハーブ円整備	約1.7億円
		総事業費	約16億円
	平成29年11月	全体整備完了	
	指定管理者	沖縄美ら島財団	
	年間目標集客数	30万人(オープン3年後)	

■なごアグリパーク完成後の取り組み

- ・加工支援施設... 農産物の加工(2次部分)を支援)
- ・ショップ...加工品等の販売(3次部分)を支援
- ・レストラン...農家と連携し名護産農産物を提供)
- ・観光農園... 集客施設として各施設との相乗効果を担う



(4)現場での質疑応答 ○:議員質問 A:市からの答弁 ※書面での質問と回答

○加工支援設備は、各種試験装置や食品加工設備を保有しているが、稼働率ほどの程度か

A:当初は月10数件の利用があったが、現在は月2-3件、農家の人は高付加価値の加工食品開発に取り組むのは難しく、現在では、企業等が利用している。

○観光農園での栽培品種は

A: アップルバナナ、マンゴー、コーヒー、グアバ、ミカン類

○年間目標集客数30万人に対する現状は

A:R2年約11万人。今年度約10万人の見込み

※加工支援施設での設備名称は

粉砕機、乾燥機、オーブン、真空包装機、餅つき機 等

※アグリパーク全体での年間売り上げは

R3～R5 はコロナ問題等で、アグリパーク閉めていて売り上げなし

R6 年4月より指定管理者を沖縄 JTB に変えて営業開始した。

※ショップ販売の独自商品は

バナナケーキ、レストランでのメニュー等

※6次加工食品はどのようなものがあるか。

令和元年認定 肉の加工品

(5)研修を受けての感想・今後の議員活動への反映等

視察研修で名護市を訪れ、六次産業についての説明をお聞きし、その内容に興味を持ちました。

六次産業化は、農産物や特産品を加工・付加価値化することで、地域経済を活性化させる手法です。名護市の成功事例を矢板市でも応用できる可能性を感じました。

矢板市でも、更に地域の資源や特産品を活かした新しいビジネスモデルを考えてみることで、地域の発展に寄与できると感じました。地域の魅力を最大限に引き出すために、さまざまなアイデアを検討し、更なる矢板オリジナル商品の開発につながる提案をしていきたいと感じました。

(1)面会者

議会事務局長（伊集 親洋） 教育委員会主事（上原 あやか）
教育委員会 係長（大城 一成）、市役所 政策推進課 課長（金城 荘）、企画部係長（本村 弥生）

(2)視察目的 ⇒「平和事業、平和教育」の取り組みについて

沖縄県は、第2次世界大戦末期、激しい地上戦である沖縄戦が繰り広げられ、20 万人の尊い命が失われ、そのうち9万4千人は一般住民でした。最後の激戦地である糸満市でも多くの住民が戦禍の犠牲となり、沖縄戦終焉の地ともいわれ、戦争遺構や慰霊塔が数多く点在しています。

悲惨な戦争を二度と繰り返さないよう、世界の恒久平和の実現のため、ここ糸満市から戦争の悲惨さ、平和の尊さを発信し続けています。この平和事業、平和教育の取り組みについて学ぶ。

(3)平和事業の取り組みについて...資料と映像により、説明を受ける

・平和都市宣言について、平成5年12月1日に、20万人の尊い命が失われ、沖縄線の最後の激戦地となった糸満市の歴史的背景を持つ本市は「ひかりとみどりといのりのまち」を基本理念とした平和都市宣言を行いました。

具体的取り組み内容は

- 1) 平和祈念祭推進事業…平和の礎拭き清め、平和関連舞台演目（絵本ひめゆり朗読等）
- 2) 平和の語り部育成事業…戦争を知らない世代の、さらに子や孫である世代に沖縄戦の実像を伝え、歴史を後世に伝える人材育成事業（中・高校生・大人対象）
- 3) 戦争遺構の保全・活用について…戦後79年が過ぎ、戦争体験者も少なくなり、戦争の記憶継承は人からモノへと言われている。市内に点在する避難壕（ガマ）や戦争被害を受けた構築物は、戦争の記憶を伝える物言わぬ語り部であり、若い世代に現実を伝える生きた教材である。近年自然風化が進んでいるので、戦争遺構の保全及び活用方針の再検討を行う。
- 4) 平和の発信・慰霊祭等の取り組みについて
 - ・各都道府県慰霊塔・碑（46 都道府県の塔、442基の塔・碑）の一部を沖縄県平和祈念財団で清掃管理
 - ・沖縄戦跡国定公園は、沖縄南部の戦跡を保護する公園
 - ・平和の礎…沖縄戦で亡くなられた人々の記念碑 242,225 人（県内 149,658 人、県外 77,978 人、国外 14,589 人）
 - ・慰霊祭…市内にある慰霊の塔・碑で開催される慰霊祭に参加・協力する。

(4)質疑応答 ○:議員質問 A:市からの答弁

○平和学習は学校でも実施していますか。

A: 総合学習の中で平和学習を実施している。

○市民が語る戦中戦後史については、一般市民でも映像みれるか

A:一部はユーチューブで公開している。

○各種団体慰霊塔は、バックナー中将戦死之跡は外国人も慰霊碑あるのか。

A:外国人の慰霊碑もある。平和の礎も外国人も記載している。



糸満市での平和教育を研修させていただき、平和の重要性を改めて感じました。現代社会では、平和が希薄になりつつあり、その大切さを再認識する機会が必要です。

以下は、私が糸満市で学んだ平和教育の在り方についての考えです。

1. 教育の役割:

平和教育は、単なる知識伝達だけでなく、心の教育でもあります。子どもたちに平和の意味や価値観を理解させることが重要です。

2. 歴史と現実の理解:

平和の尊さを伝えるためには、歴史的な出来事や戦争の影響を理解させる必要があります。同時に、現代の紛争や課題にも目を向け、平和の実現に向けた取り組みを知らせることが大切です。

3. 共感と行動:

平和を願う気持ちは大切ですが、それを具体的な行動に結びつけることが求められます。地域や国際的な交流、ボランティア活動などを通じて、平和に貢献できる方法を教えることが必要です。

糸満市で作った戦争体験証言 DVD は現代の戦争を知らない子供たちには大切な教育教材だと感じた。デジタル社会が進む中、心の教育の大切さを感じました。

視察 研修報告書

1. 日時 令和6年9月30日(月) 15番 石井 雅男 PM: 3時30分~
2. 場所 沖縄県読谷村 村役場
3. 出席者 伊波篤 議長, 儀保一樹 事務局
山内嘉親 ゆにばら推進部長
池原一光 商工観光課長 島袋通人 係長
4. 視察目的 「スポーツツーリズム」について

読谷村は日本・人口の多い村です(人口約41,200人)
沖縄県は美しく豊かな自然・温暖な気候と心に残る観光条件を
活かして国際的な観光立県を進め観光産業は沖縄経済の
柱へと成長しています。その一環として読谷村はスポーツ
ツーリズムを推進し多くの活性化に取り組んでいます。

活動状況

誘致活動

トップセールスによる活動
キーパーソン招待による会宿への対応
筋肉トレーニング用マシンの充実

誘客活動

県外PRイベントへの開催
中日ドラゴンズへの誘客活動
沖縄エッセーへの誘客活動

競谷村流 おもてなし

歓迎セレモニー、グッズ販売、イベント開催、情報発信
特産品贈呈、村内企業との連携

スポーツ教室開催、受け入れ準備支援

選手と子どもたちとの交流、挨拶運動、給食交流

受け入れの実績 (令和5年度末)

スポーツキャンプの受け入れ 16件 (令和5年度)

中日ドラゴンズキャンプ 28回 (通算)

学生野球合宿 (6団体、15回) ジュニアサッカー合宿 (3団体
21回) 各種団体サッカー合宿 (8団体、9回)

陸上、パラ陸上受け入れ (個人5人、団体8競技部)

ラグビー合宿 (12団体、42回)

女子ソフトボール (6団体、24回)

スポーツリズムの経済効果 年間約 14億円

研修後の所感

立地、環境等恵まれている競谷村が全村あげて
招致活動に取り組んでいます。矢野市では、平成30年
に県内初となる「矢野スポーツコミッション」を設立し、それ
で合宿支援補助金の創設更には、今年度は町内の湯
温泉センター内に「宿泊棟」も整備し、推進しております。
競谷村と差異は、トップセールスも初めとれて、まち挙げて
の招致活動。そしておもてなしの心が感じられました。

1. 日時 令和6年10月1日(火)

2. 場所 南郷アグリパーク AM 10時～

3. 出席者 厚部 憲克 事務局長
新田 栄達 園芸畜産係長

4. 視察目的 農産物6次産業支援拠点施設について

名護市農業生産額は1990年代の92億円あったが、2010年には58億円に減少して、農業所得が減少し農業低迷の原因となった。この解決のために農地利用の最適化や販路拡大、直付加価値化による農業所得の安定化を目指し、6次産業化の推進策として、南郷アグリパーク構想が提案された。2011年より農林水産省が「6次産業化事業計画の認定」を開始された。名護市では計画認定された初の団体(農クウニフ)が誕生したが、加工品量産のための場所や機材を用意することが困難な課題があった。平成24年沖縄振興特別推進交付金を開始され、交付額約803億円のうち、名護市は約11億円を受け、南郷アグリパーク事業がスタートした。

事業内訳

平成24年度	加工支援施設建設、駐車場整備	約6.7億円
平成25年度	ショッポの建設	約5.6億円
平成26年度	レストラン・エントランス、観光ハウス建設	約4.3億円
平成28年度	観光ハウス(2)、栽培ヤードの建設、ハーフ円整備	約1.7億円
	総事業費	約16億円(内交付金11億円)

宇都アグリパーク完成後の取り組み

加工支援施設 農産物の加工(2次部分)と支援

ショップ 加工品等への販売(3次部分)と支援

レストラン 農家と連携した産地農産物も提供。

観光農園 集客施設として各施設との相乗効果と担う。

当初 指定管理者は沖縄美ら島財団であったが現在は
沖縄JTBに変更。加工支援施設は農家の利用が

なく、企業等へ利用してゐる。又 年間目標集客数30万人
に達した現状は10万人へ見込み

研修後の所感

我が国では「6次産業化」が拡大してゐる。農業水産省のデータに
よると、2022年度の売上げ高は10年前と比較すると、過去最高の
2兆1765億円と2割増えている。この様な状況下で各県では、
農業粗生産額がピーク時の約92億円から近年は半分の程度に落ち
込んでいる。その原因は農家所得の低下に伴い、農家の人口が減少がある。
それらを挽回すべく、宇都アグリパーク構想を立ち上げ6次産業化に
取り組んでいますが、依然として低迷しております。

今回の視察は失敗した事例でした。

私はこの解決策としては、人材不足の解消。キーマンズの採用
が必要不可欠と感じました。

参考 6次産業化の伸び率 第1位は栃木県72%増(大田原市の農泊)
2位徳島県70%、3位沖縄県65%増。

1. 日時 令和6年10月2日(水) AM: 9:00~

2. 場所 糸満市役所

3. 出席者 伊集 親洋 議会議務局長

上原 あやか 教育委員会主事

大城 一成 教育委員会係長

金城 莊 政策推進課長

木村 弥生 企画部係長

4. 視察目的 「平和事業、平和教育の取組について」

糸満市は太平洋戦争の沖縄戦で最後の大激戦地であり、

多くの住民が戦禍の犠牲となり、終戦から79年を迎える

今日でも平和に対する市民の関心が高まっています。

平成5年12月1日には「ひびり、とみどり、いのちのり、まち」と

基本理念として平和都市宣言をしており、戦争の悲惨さ、平和の尊さ
を全市に発信しています。

糸満市の具体的な取組み

① 平和祈念祭推進事業

絵巻ひめゆり朗読等、毎年6月17日から23日まで「平和週間」と定め、糸満市平和祈念祭を開催

② 平和の語り部育成事業

戦争を知らない世代に沖縄戦の実情を伝える歴史を後世に伝える人材育成

③ 戦争遺構の保全・活用について

近年自然風化が進んでいるので、保全活用材の再検討

④ 平和の発信、慰霊祭等の取組みについて

慰霊塔、碑の清掃・管理

慰霊祭に参加、協力

研修後の所感

今回 ひめゆり平和祈念資料館を視察し、資料や映像により研修しました。改めて戦争の悲惨さを再認識しました。現在世界各地で戦争が勃発しており、毎日ニュース等で悲惨な状況が報道されています。私達日本人は平和の尊さを感謝すると共に、一日も早い戦争終結を祈るばかりです。天根市には、長峰公園内に慰霊碑があります。然し慰霊祭は毎年実施されていません。戦争体験が風化してしまいます。

教育現場は勿論、一般市民にも記録映像等を放映し戦争の悲惨さ、平和の尊さを正しく伝えることが大切ではないでしょうか。

子供たちのために

幸せは、自分の力で見いだそうよ。

真珠のよりを涙と

太陽のよりを笑いの中に

今日また、明日も進んで行こうよ。

さーと いつの日か振り返って

静かに微笑めるように

上野 千軍 (元軍医)
長峰公園内にある歌碑